

統合失調症患者の 薬物療法に関する処方実態調査 (2014年) —全国127施設の調査から—その1

●八幡厚生病院 柴田 木綿
精神科臨床薬学(PCP)研究会

宇野 準二、加藤 剛、黒沢 雅広、志田 雅彦、谷藤 弘淳、
高橋 結花、長谷川 毅、中川 将人、本多 智子、宮原 佳希、
梅田 賢太、北川 航平、高田憲一、三輪高市、天正 雅美、
野田 幸裕、吉尾 隆

倫理的配慮

本調査や解析では個人情報情報を慎重に取り扱い十分な倫理的配慮を行った。

日本精神神経学会

利益相反(COI)開示

筆頭発表者名: 柴田 木綿

演題発表に関連し開示すべきCOIはない。

目的

- 精神科臨床薬学研究会（以下、PCP研究会）会員の所属する施設に入院中の統合失調症患者について処方実態調査を行い、薬物療法の実態を把握する。
- 本報告では、2014年の調査結果と持続性注射製剤（LAI）の処方傾向を報告する。

方法

- **対象** PCP研究会会員の所属する全国127施設に入院中の統合失調症患者17,400人
- **調査日** 2014年10月31日
- **調査項目** 年齢、性別、身長、体重、血圧、心電図異常、血液、生化学、血糖、服薬回数、服薬指導実施の有無、抗精神病薬(含LAI)、抗パーキンソン薬、抗不安薬・睡眠薬、気分安定薬の投与剤数および投与量
- **統計解析** 比率の差の検定には χ^2 検定、2群間の平均値の差の検定にはStudent-t検定、3群間の平均値の差の検定には分散分析を行った後でTukey法を用いて解析した。いずれも有意水準は5%とした。

調査対象の比較

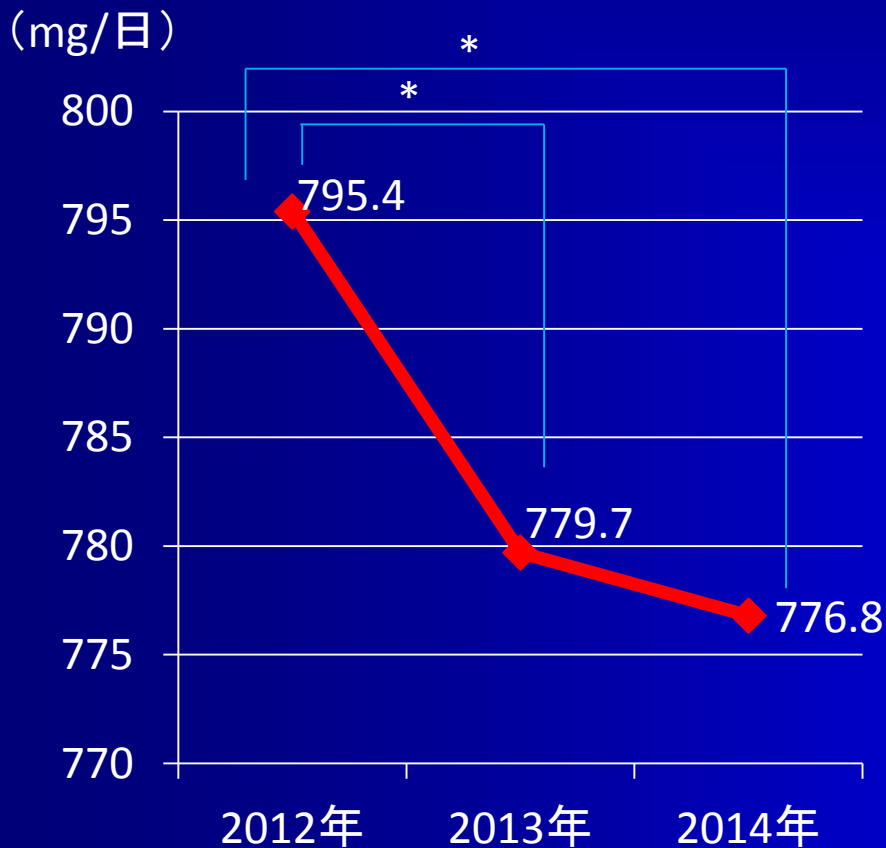
	2012年	2013年	2014年
施設数	154	135	127
患者数	21,798	19,168	17,400
(男/女)	(11,517/10,641)	(8,854/8,575)	(8,819/8,581)
平均年齢	58.8	58.2	58.2
(min-max)	(11-100)	(11-98)	(11-103)
平均服用回数	3.46	3.40	3.40
(min-max)	(0-10)	(0-10)	(1-10)
服薬指導実施率	24.2%	26.4%	29.3%
(実施/未実施)	(4,515/14,120)	(4,308/11,998)	(4,289/10,361)

向精神薬処方状況の推移

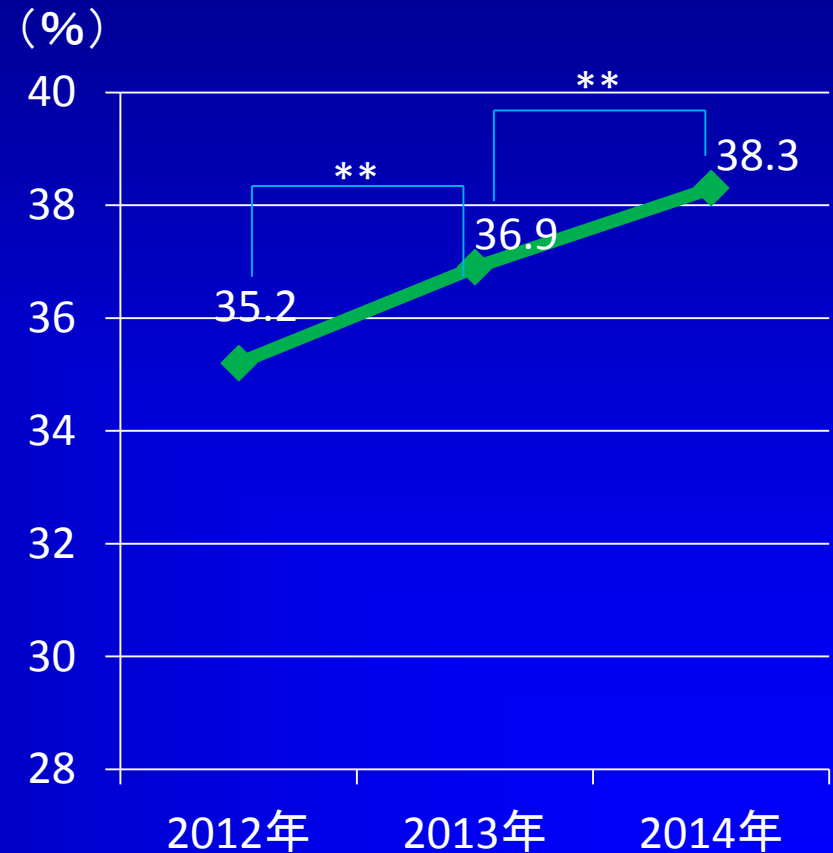
		2012年	2013年	2014年	* ANOVA P<0.05	Post-hoc Tukey P<0.05
抗精神病薬	剤数	2.0	2.0	1.9	*	2013－2014
	CP換算 (mg/日)	795.4	779.7	776.8	*	2012－2013 2012－2014
抗パーキンソン薬	剤数	0.7	0.6	0.6		
	BP換算 (mg/日)	1.7	1.5	1.4	*	2012－2013 2013－2014 2012－2014
抗不安薬・睡眠薬	剤数	1.3	1.3	1.2	*	2013－2014
	DAP換算 (mg/日)	13.4	12.9	11.9	*	2012－2013 2013－2014 2012－2014
気分安定薬	Li(mg/日)	583.7	580.2	573.8	*	2012－2014 2013－2014
	CBZ(mg/日)	487.3	482.6	467.4	*	2012－2013 2013－2014 2012－2014
	VPA(mg/日)	672.7	668.5	674.7		

抗精神病薬投与量と単剤処方率の推移

抗精神病薬投与量



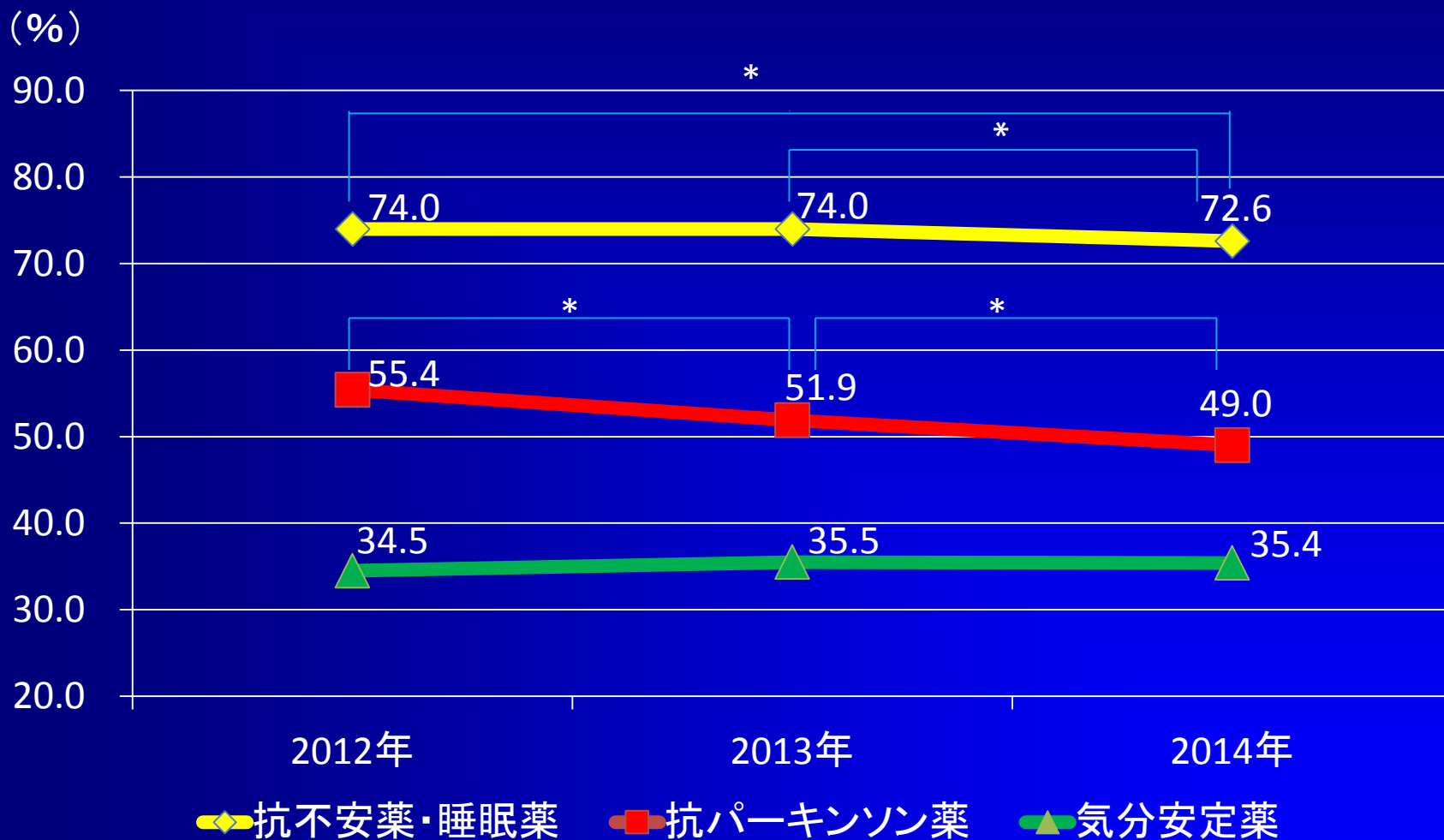
単剤処方率



* Post-hoc tukey (P<0.05)

** χ^2 検定 (P<0.05)

併用薬処方状況の推移



* χ^2 検定 (P<0.05)

LAIの処方率(2014年)

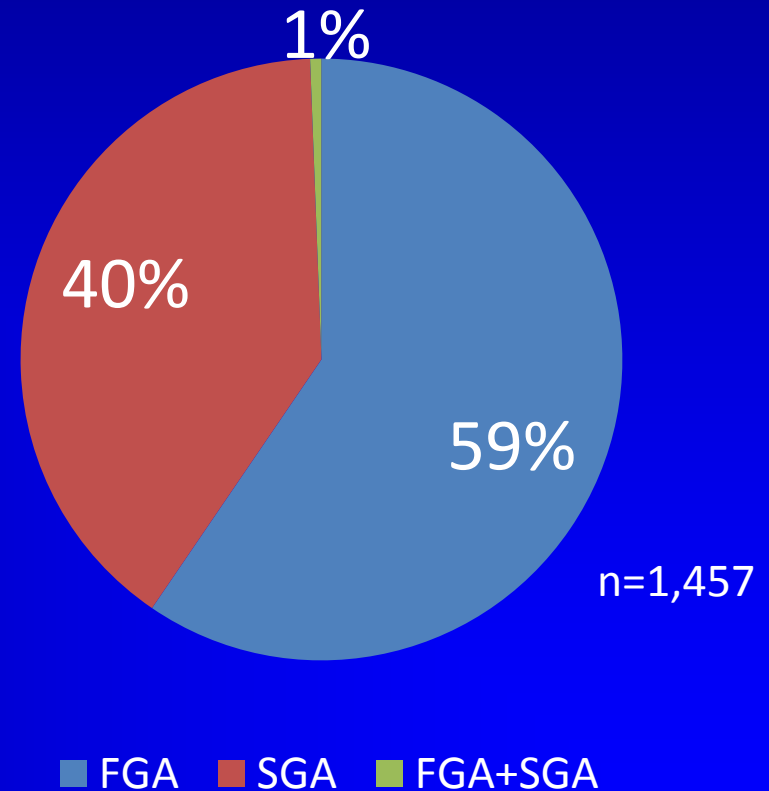
各LAIの処方率

LAI全体(%)	8.4
RLAI(%)	2.3
PP(%)	1.2
HD(%)	3.4
FD(%)	2.0

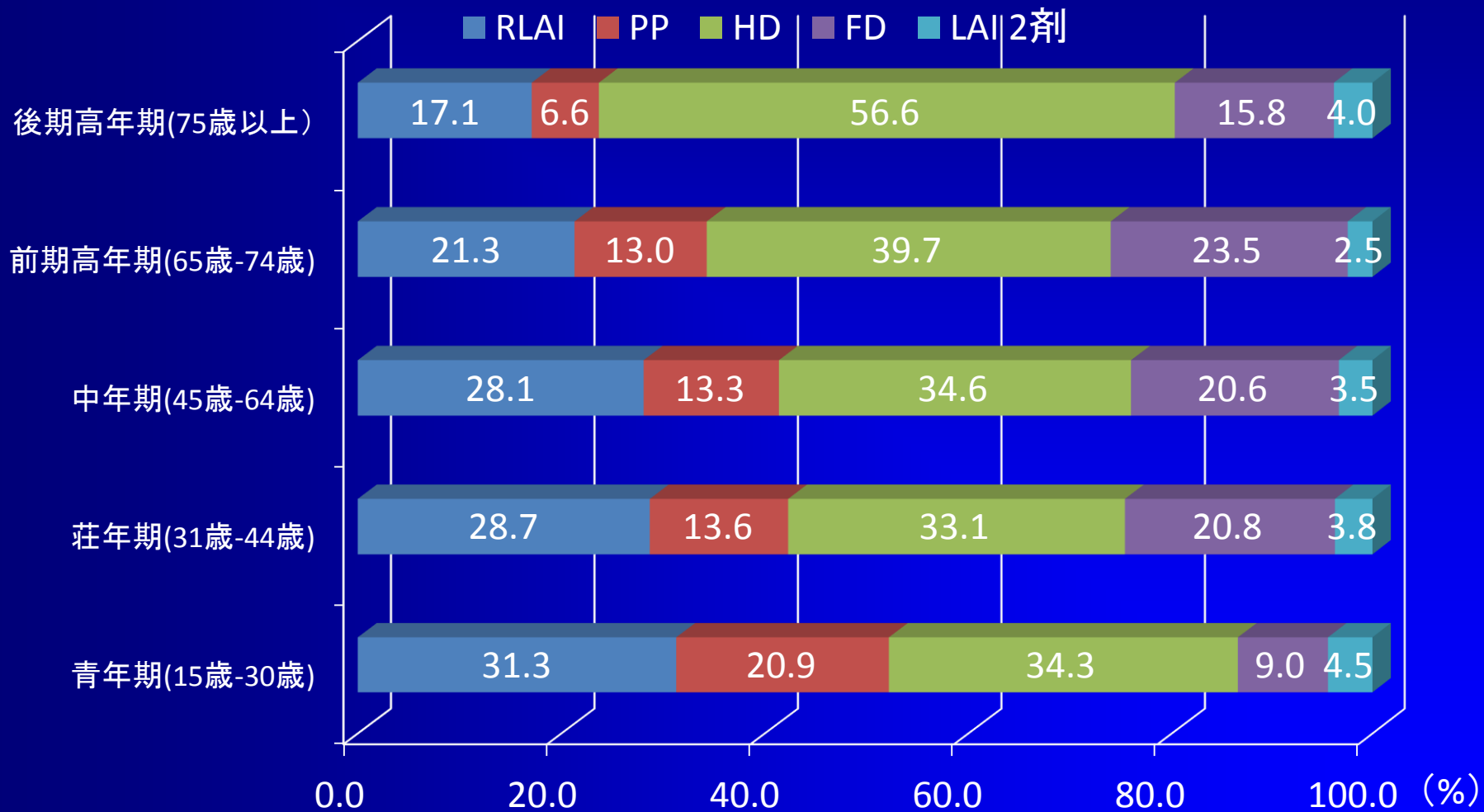
n=1,457

RLAI: risperidone long-acting injection
PP: paliperidone palmitate
HD: haloperidol decanoate
FD: fluphenazine decanoate

世代別処方率



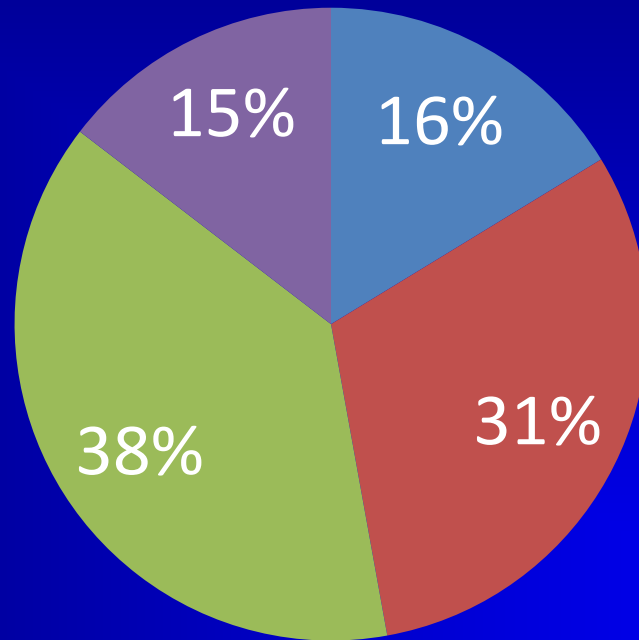
年齢層別に見たLAI処方状況



LAI投与患者における 向精神薬処方状況

抗精神病薬	剤数(剤)	2.6
	CP換算(mg/日)	1198.7
	単剤処方率(%)	20.8
抗パーキンソン薬	剤数(剤)	0.7
	BP換算(mg/日)	1.7
	併用率(%)	51.3
抗不安薬・睡眠薬	剤数(剤)	1.1
	DAP換算(mg/日)	12.5
	併用率(%)	66.3
気分安定薬	併用率(%)	35.8

LAI投与患者における 抗精神病薬投与量分布



n=1,457

■ 500mg/日未満

■ 500mg/日以上1000mg/日未満

■ 1000mg/日以上2000mg/日未満

■ 2000mg/日以上

抗精神病薬投与量 (CP換算)

LAI単剤

LAIと経口抗精神病薬の併用との比較

	LAI単剤 (n=276)	LAI+経口抗精神病薬 (n=1,181)
抗精神病薬投与量 CP換算(mg/日)	428.7	1378.7*
抗パーキンソン薬併用率(%)	17.0	59.4#
抗不安薬・睡眠薬併用率(%)	39.1	72.7#
気分安定薬併用率(%)	9.8	41.8#

* P<0.05vsLAI単剤 (Student-t検定)

P<0.05vsLAI単剤 (χ^2 検定)

結果

(2014年の調査結果)

- 2014年の抗精神病薬平均投与剤数および投与量(CP換算)は1.9剤、776.8mg/日で、それぞれ2012年から有意な年次変化(減少)を認めた。平均投与剤数は2013年に比べ有意に減少し、平均投与量は2012年に比べ有意に減少した。また、単剤処方率は38.3%で、2012年から年々増加していた。

結果

(2014年の調査結果)

- 併用薬の処方状況では、抗パーキンソン薬平均投与量、抗不安薬・睡眠薬平均投与剤数および投与量、気分安定薬(Li,CBZ)投与量において、2012年から有意な年次変化(減少)を認めた。
- 抗パーキンソン薬併用率は2012年から年々減少し、抗不安薬・睡眠薬併用率も2012年および2013年に比べ有意に減少したが、気分安定薬併用率では有意な年次変化を認めなかった。

結果

(LAIの処方傾向)

- 2014年のLAIの処方率は8.4%であり、世代別ではFGAの割合が高かったが、青年期ではSGAがより多く使用されている傾向が認められた。
- LAI投与患者における抗精神病薬平均投与剤数は2.6剤、平均投与量(CP換算)は1198.7mg/日、単剤処方率は20.8%であった。
- LAI単剤に比べ、経口抗精神病薬併用群では、抗精神病薬投与量と併用薬併用率が有意に高かった。

考察

- 統合失調症患者全体の薬物療法は、抗精神病薬の剤数や投与量が減少し、併用薬の減少も認められたが、LAI投与患者に限局すれば、単剤処方率は極めて低く大量処方が多いことが判明した。
- 特に経口抗精神病薬併用群では、LAI単剤に比べ抗精神病薬投与量、併用薬の処方率が有意に高く、LAIの利点（毎日の服薬から解放され簡便な薬物治療を受けられる）は活かされていないと考える。また、LAIは経口抗精神病薬に比べ血中濃度の変動が少なく副作用も最小限にとどめることができるが、経口抗精神病薬併用群における抗パーキンソン薬併用率(59.4%)は、LAI単剤(17.0%)の約3倍であり、LAIの薬理学的有用性も損なわれていると思われる。

考察

- LAIの利点や薬理学的有用性を考慮すると、多剤併用大量処方の中でLAIを使用することは、LAIの適正使用からは乖離するものであり、経口抗精神病薬の併用は最小限にとどめ、外来維持治療を見据えて適正使用を推進していく必要があると考えられた。